日本の、NATO との密通事務所は、中露を不安定化する計画の一部

https://sputnikglobe.com/20230511/natos-liaison-office-in-japan-part-of-plan-to-destabilize-china-and-russia-1110263884.html

Sputnik International/ Toru Hanai
May 12, 2023

日本政府は、NATO との密通（liaison）オフィスを開く方向で動いているが、林芳正外相は、渦巻くロシア-ウクライナ紛争と世界的に増大する不安定を理由に、この動きを正当化しようとしている。この展開の背後にあるのは、実際のところ何だろうか？

「日本に NATO 事務所を置く理由はすべて、ロシアと中国を不安定化し、韓国と日本がアメリカに対して演じている完全な従僕国の役割を、確認させることにある。その目的は、この 2 国を傀儡のように使い、北朝鮮、ロシア、および中国に、敵対させることだ」と、*The China Trilogy* の著者 Jeff J. Brown は話した。ジェフ・ブラウンは China Rising Sinoland の編集者で、Bioweapon Truth Commission の共同創設者でもある、とスプートニクは言っている。

「だから、このような考え全体に、アジアを不安定化するという、もう一つの要因があるのだ。彼らはアメリカのために、3 つの憎まれている敵を不安定化しなければならない。その 3 つの敵とは、中国、ロシア、それに北朝鮮だ。」

それはウクライナとそもそも関係があるのだろうか？

5 月 10 日、日本の林芳正外相は、CNN に対し、日本政府は NATO との密な関係を開く交渉をしており、この種のものはアジアでは初めてだろうと言った。「我々はすでに協議をしているが、まだ詳細は決定していない」と日本の政府関係者は言った。

今週早々、富田浩二駐米日本大使は、わが国はそのようなオフィスを開く方向にむかって「**仕事している**」が、詳細はまだ出ていないと言った。

日本政府は最近、NATO とのパートナーシップを強め、2022 年 6 月には、岸田文雄首相が、NATO サミットに出席した日本初のリーダーとなった。2023 年 4 月 24-26 日には、NATO の共同安全保障部門の Francesco Diella 中将（女性）が、国家的な上級軍事代表会議のために、来日し、現状の協力関係と機会を論じ、軍事的絆を強化しようとした。

> 「これらはパンデミック後の、我々の日本で最初の軍事スタッフの協議ですが、私は何より先に、ヨーロッパで起こったことが、あなた方にも重要であることがわかりました。それは、インド-太平洋領域で起こることが、NATO にとって重要なのと同じです」と、Diella は、南方信孝少将に率いられた日本の接待者たちに言った。「**あなた方のウクライナに支援は、グローバルなスケールで安全保障を与える者として、あなた方の関りを示されたもので、重要な意味をもつものでした。**」

東京とワシントンが、繰り返し強調して、彼らのますます重要となった軍事協力が、たとえそれがアジア-太平洋地域に関係がなくても、ウクライナ問題によって起こったことは、決して偶然ではなかった、とブラウンは説明して言った。

日本は、西側が中国包囲を求めるのに応じて、「NATO 密通オフィス」を開くことを求めている

> 「〈ウクライナはここ太平洋における状況に、直接、関わっている〉というのは、一種の皮肉なフロイト的本音である。なぜなら、NATO がウクライナにおいて、ロシアを滅ぼそうとする計画は、直接、台湾にまで投影されており、日本と韓国を、NATO メンバーとして利用しようとしているのは、明らかだからである」とブラウンは言った。「だからあなたは西側において、NATO を持ち、ウクライナを持ち、ロシアを持っている。このウクライナは代理にすぎない。そしてアメリカは、ヨーロッパを従僕国として利用している。それは基本的にアメリカを支援するための従僕国、あるいは奴隷である。西側の

帝国主義-グローバル資本主義は、ロシアを滅ぼそうとした。彼らは今、全く同じことを、アジアでやろうとしているのだ。」

太平洋と、東欧に起こっている紛争を結び付けることによって、日本政府が基本的に確認しつつあることは、「NATO は台湾を代理に使い、中国、ロシア、北朝鮮に敵対させるだろう。そして日本と韓国は、従僕国として西ヨーロッパの役目を果たし、アジアにおいては、北朝鮮、中国、そしてロシアを攻撃するということだ」と、ブラウンは言った。「だからそれは同じ台本なのだ。それは世界の地域が違うというだけだ」と彼は強調した。

「それはウクライナとは全く関係がない、アメリカが敵対する中国の勃興が問題なのだ」と、もう 1 人の国際関係の権威 Dr. Scott Burchill は、ブラウンに同調して、スプートニクに話した。「それは北京を敵に回すように計画されている。その目的はワシントンが、その地域の友好国や同盟国の軍事戦略を、確実にコントロールするためだ。」

2 人の従僕たち：日韓の友好関係回復は、米の中国・北朝鮮に対する太平洋政策を利する

日本の軍国主義はアメリカと NATO によって煽られた

2022 年 12 月、岸田文雄首相の率いる日本政府は、3 つの政策文書を承認した。それは国家安全保障戦略、国防戦略、それに国防構築計画で、次の 5 年間の国家防衛支出を、倍増することを狙うものだった。この新しい支出は、およそ 3,200 億ドルになり、第 2 次大戦以来の日本の、最大の軍事費増額を確実にするものだった。

日本の 2 次大戦後の安保政策は、大きく平和主義的だったはずだが、日本政府はそれを修正することを決定し、これは国際的な・地域的な安全保障の変化のためだと言い、その長年の同盟国であるアメリカが、日本は「その戦後の国際秩序」を護るために、「国家の力」を用いることを期待する、と言ったことを引用した。

スプートニクの司会者によれば、日本の最近の軍国主義化の背景にあるのは、アメリカ主導の NATO ブロックだという。特に Burchill は、軍国主義化の傾向は、NATO の冷戦後の拡大が生んだものだ、という事実に注意を促した。

「NATO は〈自己領域外作戦〉を長年の間、行なってきた。セルビア攻撃（1999）やリビア攻撃（2011）は、最もよく知られた最近の例だ」と、Burchill は言った。「より新しくは、ワシントンの〈ハブ・アンド・スポークス〉と呼ばれる連盟を通じて、東アジア（日本）からアジア-太平洋（オーストラリア）に至る全域で、NATO が中国を閉じ込めるために、効果的に東アジアに拡大しつつある。」

「日本に政府関係者を駐在させ、北オーストラリア（ダーウィン）に米海兵隊を輪番で駐屯させ、韓国に核武装した B52 爆撃機を駐留させることで、この拡大は強化されている。それは効果的に、NATO の東欧への拡大の、反対側を形成している」と、この学者は続けて言った。

バーチルは、AUKUS——豪、英、米 3 国安保協約——それに Quad——豪、印、日、米間の戦略的安保対話——は、すべて同じような目的をもつものだと言った。

「**そういったものをどれでも、その領域により大きな安全をもたらすかのように説明するのは、ナンセンスだ**」と、この学者は明言した。「**それは、その半球に武装競争を促すことによって、まさにその逆をもたらすだろう。**」

日本が軍国主義に逆戻りする一方で、アメリカは日本を利用して中国と戦わせようと準備している

・・・以下、若干省略

［訳者 Greatchain 注］

これは我々の 5/6 記事の話題に、新しく追加したものである。ここではこの問題に関する専門学者 2 人を登場させて論じている。

この人たちの説明はよくわかる。これを、アメリカや NATO に対して偏見を持っている者たちだとして非難する人は、まずいないだろう。偏見も何も、これは明敏な人たちが、事実を分析しているだけの話である。

わからないのは、どうして岸田首相を中心とする日本政府が、積極的な、世界を驚かせるような米-NATO 寄りの姿勢を示すのだろうか？　彼らは米-NATO の立場を受け入れるというより、むしろ自ら進んで、やり方を示しているように見える。これは岸田首相の、ロシアのウクライナ侵攻が始まったときの、最初の行動からそうだった。彼は揺るがぬ自信をもって世界を説得して回った。これは世界を驚かせたはずである。そして今回もそうだった。むしろ NATO の軍事指導者自身が驚いて、来日の際にこんなことを言っている。

「あなた方のウクライナ支援は、グローバルなスケールで安全保障を与える者として、あなた方の関り方を示されたもので、重要な意味を持つものでした。」

これは「日本人がここまでやれるとは思っていませんでした、兜を脱ぎます」という意味であろう。確かに――これは日本人全体の感想ではなかろうか？　ただ日本人が vassal（従僕）と言われながらも、自信を持って本当に世界に範を示すとしたら、それはどんな形で結果が出るのだろうか？